

# 平成28年度第1回政策会議

日時 平成28年9月23日（金）10:00～12:00

会場 市長会議室

参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 山本教育長 川越企業局長  
種田企画部長 高橋総務部長 入江財務部長

## 2 「ガーデンシティ函館」の実現をめざして（案）について

◎対応 種田企画部長 本吉企画部次長  
田畑計画推進室長 竹崎新規政策担当課長

### ◆ 議題の趣旨 ◆

「ガーデンシティ函館」の実現をめざして（案）について協議しました。

### ◆ 協議の結果 ◆

一部修正の上、本件の内容は了承されました。

### ◆ おもな発言 ◆

#### ■竹崎課長

「ガーデンシティ函館」の実現をめざして（案）では、歴史と景観に配慮したデザイン性の高い町並みを整備し、函館市全体が緑あふれる公園やオープンガーデンのような、見て、歩いて、感じて楽しいまちになるよう、長期的なまちづくりに取り組むこととし、15年間、平成42年度までを重点期間と考えており、その推進にあたっては平成24年に美しいまちづくり検討会で提言された「美しい都市空間の形成を目指して」の、基本的なコンセプトなどを参考としながら進めていく。

基本方針として、「住む人や訪れる人が、見て、歩いて、感じて楽しいまちづくり」、「まちの魅力向上による賑わいの創出と交流人口の拡大」、「将来にわたって持続する国内屈指の都市ブランドの確立」の3点を掲げ、4つの主要施策により進めていきたい。

これまで西部地区で培った町並み整備を基盤としつつも、西部地区の手法をそのまま持ってくるのではなく、その地区の特性を活かして地域全体に広げ、美しい町並みを進化させるということで推進イメージを記載している。

#### ■市長

推進イメージが、花や緑といった特定の取組内容に偏った図や推進体制になっている。一部分を全体イメージにすると、それが全てに見えてしまう。

#### ■川越局長

推進体制と、対応する4つの主要施策を一緒に載せることで分かりやすくなるのではないか。

■種田部長

担い手が分かりやすくなるように見直したい。

■片岡副市長

主要施策の説明においても、道路整備と緑化に偏った記載となっているように見える。都市景観や民間の協力などについても記載した方が良いのではないかと。

■山本教育長

全体的に都市景観の考え方に近いと感じている。これまでの都市景観条例など、様々な施策と関連させていった方が良い。

■市長

公共のみならず、例えば民間へ協力を求める看板のデザインなど色々なものが考えられるし、景観に配慮した建物にするよう協力を依頼するだとか、昼の函館山の魅力向上なども想定される。場合によっては、廃屋や空き地の整理などもしていかないと優れたデザイン性のあるまちにはならない。

こうした都市景観についてのデザインや取組を説明する上で、私は「西部地区でやったまちづくりをまち全体に広げていく」というのが分かりやすいと考えている。高さ制限や歴史的な家屋への補助制度など、様々な施策が絡んでいる。ただ道路を造って街路樹を植えて、花壇を整備すれば良いというものではない。

■種田部長

表現を修正させていただきたい。

■竹崎課長

ガーデンシティ函館の対象地域は全市域とし、そのうち観光客や市民が良く訪れる西部地区、駅前・大門地区、本町・五稜郭地区、湯の川地区の4地域を重点推進エリアと設定し、それぞれの重点エリア間の連続を意識して点から線、線から面へのまちづくりを推進することとしている。

推進時期は、前期・中期・後期の5年ごと3つに区分することとし、現時点で想定されるハード系事業とソフト系の事業を記載している。実際の事業展開としては、①事業計画の立案、②「ガーデンシティ函館」に基づく事業のデザインワーク、③主管課によるガーデンシティ函館事業企画書の作成・提出、④「有識者への確認、意見聴取」という流れを経たうえで事業を進めるということと考えている。

■種田部長

今後10年間にあたっては、有識者会議メンバーからのアドバイスをいただきながら推進することとする。

■市長

全体を通じてバリアフリーの視点、高齢者や障がい者に対する配慮についての記載が無い。今後、高齢化社会は更に進むと考えられ、障がい者に対応したまちづくりというものも求められている。とりわけ道路や公園については、そういった発想が必要である。

■種田部長

ご指摘いただいた部分を一部修正の上，決定とさせていただきます。